

産総研への期待



橋本 昌

* 茨城県知事

産業技術総合研究所が発足して1年半が経ちました。最近の産総研の活動を拝見いたしますと、わが国の将来、さらには人類の未来に貢献する新たな研究開発に引き続き取り組まれているほか、産学官連携とベンチャー支援のしくみを整備するなど、産業界が求める技術の開発とその移転を積極的に進められているところであります。こうした取り組みは独立行政法人となった他の研究機関の模範となるものであり、たいへん心強く感じるとともに、そのご努力に深く敬意を表したいと思います。

わが国の産業競争力の低下が懸念されておりますが、わが国の英知の集積である科学技術の研究成果を産学官が連携しながら積極的に活用して、新しい産業を生み、育てていくことが殊のほか重要であることはあらためて申し上げるまでもないことです。

こうしたことから、茨城県でも、産学官の連携による、「つくば連絡会」を設け、昨年11月に「つくば発新事業創出プログラム」を策定し、例えばバイオ、ITといった分野別産業フォーラムの開催や投資家等に事業計画を発表するベンチャーマーケット事業などの活動を行ってきました。ここでも筑波大学とともに、産総研は、中心的な役割を果たしていただいているわけですが、今後とも地域の研究開発型中小企業やベンチャー企業にも目を向けていただき、これら企業のニーズにあわせて高度な技術や研究成果を提供いただきますとともに、その新事業展開についても応援していただくことを期待しています。

今般、国に対してつくば・東海知的特区制度の導入を提案したところですが、その目指すところは、国際的な産学官連携の下で、官民の研究機関が異分野の研究融合を進めることによって、「国際的な知の融合と創生、さらには新産業創出」の拠点形成を図ることです。本構想を機に、地域連携と研究環境の整備を進める中で、つくばがその総合力を発揮できれば、と願っております。融合分野を含め産業技術全般にわたる研究開発と産との連携による新産業創出は、産総研の使命と思いますので、産総研には、知的特区構想推進の中心的な役割を担っていただくことを大いに期待している次第です。